

地域のためにできること 南中学生が地域活性化活動を実施

今年度、牛久南中学校では3年生が中心となり、「地域活性化」をテーマに「地域で自分たちができることは何か」を学校運営協議会、地区社協、各行政区長と話し合ってきました。そして9月16日、全校生徒が自分が住む地区に分かれ、祭りの準備や防災、除草作業などの活動に取り組みました。生徒たちからは「これからも自分のことをしていきたい」などの声が聞かれました。11月20日の牛久市環境美化の日には、全校生徒が地域の方々と一緒にゴミ拾いをする予定です。



- 1 緑ヶ丘行政区では祭りの準備を行い、翌日は祭りの運営にも参加しました。
- 2 みどり野行政区では住民の方と一緒にAED講習会等を行いました。

よりよい障がい者福祉の実現を求めて

牛久市障害者連合会より要望書提出

9月28日、市障害者連合会が根本市長に障がい者福祉に関する要望書を手渡しました。要望書では障がい児・障がい者に寄り添った福祉サービスの充実、相談支援機関の強化などを求めています。福田進久会長は「後天的に障がいを持った等の理由から障がい福祉への知識がない方々のためにも、わかりやすい障がい福祉の仕組みづくりを実現してほしい」と話しました。



うしく河童大根出荷開始です！

秋冬大根目揃会

10月14日、JA水郷つくば大根生産部会主催による秋冬大根の目揃会が開催されました。「うしく河童大根」として出荷されるこの大根は、茨城県銘柄産地指定を受けている牛久のブランド農産物です。増原進一部会長は「質も良くおいしい大根です。これからの時期は煮て食べるのがおすすめです」と話しました。



ぶどう摘み取りのお手伝い

デイサービス利用者の方々、地域貢献活動に参加

9月27日から29日に、知的障害者デイサービスわくわく、通所介護事業シルバーウイング、身体障害者デイサービス事業の利用者の方々が、牛久シャトーで木への負担を減らすための果実の摘み取り作業のお手伝いを行いました。



社協職員、被災地支援へ

台風15号被災地への支援

10月6日から10日に、9月に発生した台風15号の被害を受けた静岡県に災害救援職員として牛久市社会福祉協議会の岡本匡裕さんが派遣されました。岡本さんは現地の災害ボランティアセンターでボランティアの受付や、活動場所までの案内などの支援にあたりました。





おいしいピザを堪能

第4回牛久ピザフェスタ

10月9日、市役所近隣公園で牛久ピザフェスタが開催されました。同イベントは「ワインと食」による観光振興のため、牛久市商工会青年部の主催で開催され、今回で4回目。3年ぶりの開催となる今回、来場者はその場で焼成し、提供されるピザを堪能しました。その他にもフォトコンテスト、ぶどう早搾り王座決定戦などが行われ「食」以外でも楽しめるイベントとなりました。また来場者からは「外で食べる焼き立てのピザはおいしい」などの声が聞かれました。

秋の味覚が届きました

「牛久の日」給食

10月7日、市内の公立保育園・幼稚園、小・中・義務教育学校の給食は、地産地消を促進する「牛久の日」メニュー。牛久第二幼稚園のメニューは「野菜の味噌汁、鶏肉とさつまいもの塩麹炒め、りんご」で、ほとんどの食材に牛久産のものが使用されています。りんごは市内の農園の「秋映え」で甘酸っぱく、真っ赤な皮がきれいなりんごです。子どもたちはおいしそうにほおばり、秋の味覚を楽しみました。



傳兵衛は43歳のころ、明治32(1899)年に現在の旭川市に約3万5000坪(11万5000㎡)の広大な敷地を手に入れます。傳兵衛は一つの定見をもっていました。日本の人口が増えて行く中で、米を酒造りに使っているのは米が不足し米価は高騰してしまう、雑穀や芋類などの畑作物を原料にした酒を作れば米不足を補うことができる、しかも畑作物の酒は年数が経てば品質が良くなり海外へ輸出もできて外貨も稼げるという見識です。早くから傳兵衛は、酒精(アルコール)の

明治13(1880)年に浅草・花川戸に開業した「みかはや銘酒店」(後の「神谷バー」)で洋酒の一杯売りを始めて成功した神谷傳兵衛は、明治30(1897)年、現在の牛久市に36万坪(120万㎡)の広大な敷地を買取り、神谷葡萄園を創設。明治36(1903)年に、神谷葡萄園牛久醸造場(現牛久シャトー)を開設しました。



合同酒精株式会社旭川工場

このように、「日本ワイン」と「国産アルコール」という、日本が近代化の道を歩むなかで神谷傳兵衛が成し遂げた2つの事業の痕跡が、煉瓦造建造物という形で、牛久市と北海道(旭川市)に残されているのです。

原料として、北海道のジャガイモ、トウモロコシに着目しており、国内で初めて無水アルコールの製造に成功しました。その足跡として、北海道旭川市には、神谷傳兵衛が作った工場が合同酒精株式会社旭川工場として現在も稼働しており、その敷地内には、大正時代の神谷酒造時代に作られた煉瓦造のアルコール蒸留塔が現存しています。

早くから酒の原料として北海道の畑作物に着目し、国内で初めて無水アルコールの製造に成功

《シリーズ企画》

神谷傳兵衛 没後100年



神谷傳兵衛と北海道

